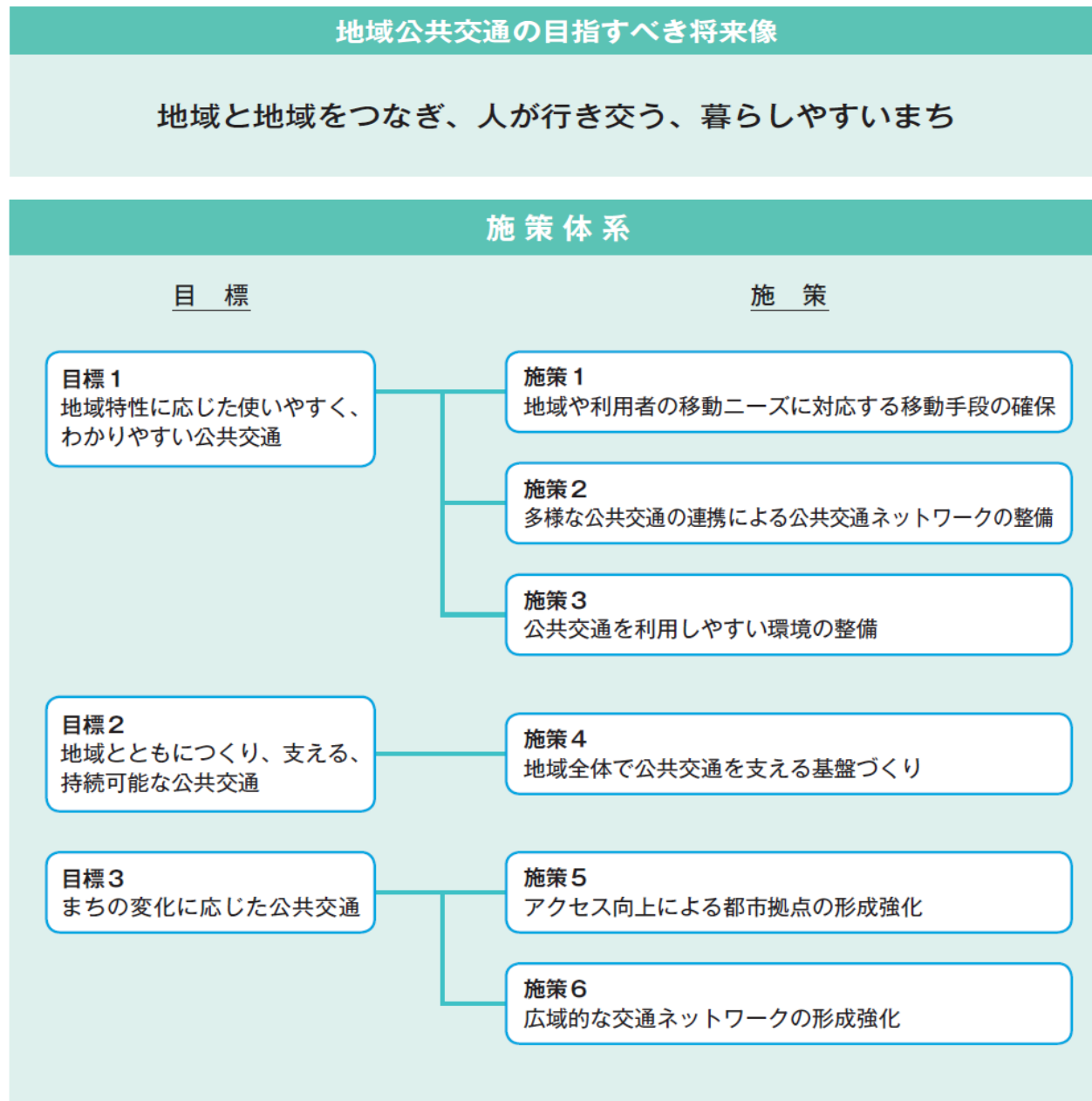


【第1号議案】

■新発田市地域公共交通網形成計画 体系図



■評価指標の年度別達成状況

【目標1】 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通								
評価指標	現状値	H29 目標値/実績値	H30 目標値/実績値	R1 目標値/実績値	R2 目標値/実績値	R3 目標値/実績値	R4 目標値/実績値	R5 目標値/実績値
① 路線バスの年間利用者数 ※バス事業年度（10月から翌9月まで）	120,371人 (H28年度)	121,175人	121,979人	122,783人	123,588人	124,392人	125,196人	126,000人
		109,657人	56,543人	55,267人	52,027人	47,683人	46,380人	39,564人
達成状況		×	×	×	×	×	×	×
R5.5に赤谷六軒町線が市のコミュニティバスに切り替わったため、R5実績の全体からその分は減少しているが、他の路線は前年度と大きく変わらない。 また、市の運行見直しでH28には11路線あったが、R5.5から2路線、R7年度中に0になる予定であり、目標設定時から状況が変化していることから、目標値と乖離している。⇒公共交通計画では、営業路線の利用者数・収支率等を目標値に設定。								
② コミュニティバスの年間利用者数	108,401人 (H27年度)	111,487人	114,572人	117,658人	120,743人	123,829人	126,914人	130,000人
		121,060人	106,621人	92,739人	78,976人	88,496人	85,456人	91,069人
達成状況		○	×	×	×	×	×	×
R5実績値の内訳は、新発田市コミュニティバス（菅谷・加治）44,376人（前年度比+2,262人）、川東コミュニティバス46,693人（前年度比+3,351人）で、両路線とも利用者数が増加しているが、目標値には達していない。高校生の人数が年々減少傾向にあり、利用者数もそれに併せて減少傾向になることが予想される。車両更新時にはサイズのコンパクト化やニーズに合わせた運行スリム化を図っていく必要がある。⇒公共交通計画では、前年度を下回らないことを目標値に設定。								
③ 路線バスの見直し地区数	4地区 (H28年度)	6地区	7地区	8地区	8地区	8地区	8地区	8地区
		4地区	5地区	5地区	5地区	5地区	6地区	7地区
達成状況		×	×	×	×	×	×	×
学校統合等により路線バスの見直しを行った地区は、菅谷・加治、川東、五十公野・米倉・赤谷、松浦、豊浦、加治川、紫雲寺の7地区となっている。R6年度から佐々木地区（8地区目）の検討を開始し、R7年度上期に見直しを予定している。⇒公共交通計画では、公共交通空白地域の解消率を目標値に設定。								
④ 「バスどこ？」HPへの年間アクセス件数	14,162件 (H27年度)	15,710件	17,259件	18,807件	20,355件	21,903件	23,452件	25,000件
		32,098件	25,712件	16,291件	10,116件	13,758件	30,193件	41,019件
達成状況		○	○	×	×	×	○	○
バスどこの利用促進チラシの配布やR5年度中に五十公野～赤谷地区、加治川地域の運行を開始し、運行開始に合わせてバスどこの整備したことで、アクセス数が増加した。ダイヤが乱れやすい冬のシーズンにはアクセス数が増加することから、バス利用の不安を解消するツールとして一定の役目を果たしている。⇒公共交通計画の指標にはないが、バスどこシステムの改善を検討するなど、利用しやすい公共交通にしていきたい。								

【目標2】 地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値
① 地域における検討支援体制の構築数	4団体 (H28年度)	6団体	7団体	8団体	8団体	8団体	8団体	8団体
		4団体	6団体	7団体	7団体	7団体	8団体	9団体
達成状況		×	×	×	×	×	○	○
R6年度に運行開始を開始した紫雲寺地域公共交通の運行内容を協議するため、R5年度に新たに紫雲寺地域で検討組織を立ち上げ、協議を行った。⇒公共交通計画では、利用者目標値を設定した路線数を目標値に設定。								
② 路線バス利用者1人当たり運行経費	1,077円/人 (H28年度)	1,070円/人	1,063円/人	1,056円/人	1,049円/人	1,042円/人	1,035円/人	1,028円/人
		1,205円/人	1,298円/人	1,280円/人	1,258円/人	1,083円/人	932円/人	913円/人
達成状況		×	×	×	×	×	○	○
廃止代替路線を市のコミュニティバスに切り替えており、運行効率が改善されている。R7年度中に廃止代替路線がなくなる予定。⇒公共交通計画では、営業路線の利用者数・収支率等を目標値に設定。								
③ コミュニティバス利用者1人当たり運行経費※1	747円/人 (H27年度)	729円/人	712円/人	694円/人	676円/人	658円/人	641円/人	623円/人
		683円/人	799円/人	926円/人	1,141円/人	1,013円/人	1,150円/人	1,054円/人
達成状況		○	×	×	×	×	×	×
新発田市コミュニティバス（菅谷・加治）、川東コミュニティバスともに前年度と比べて利用者数が増加し、運行経費も減少したため、前年度と比較して1人当たりの運行経費は減少したが、目標は達成できなかった。高校生の人数が年々減少傾向にあり、利用者数もそれに併せて減少傾向になることが予想され、運行経費は人件費の上昇に伴い増加傾向にあるため、運行の効率化が求められる。⇒公共交通計画では、R4年度の額を下回ることを目標値に設定。								
④ 公共交通の利活用を推進する年間取組数	4件 (H28年度)	10件	11件	12件	12件	12件	12件	12件
		6件	10件	12件	1件	1件	12件	22件
達成状況		×	×	○	×	×	○	○
R5年度は乗り方教室を4件、乗り方説明会を3件行った。その他、市内の中学3年生にバス体験券付のチラシを配布、マイ時刻表や利用促進のチラシを作成して利用促進を図った。これまでバスが運行していなかった地区の方に利用していただくため、利用促進の取組を積極的に進めていく必要がある。⇒公共交通計画の指標にはないが、引き続き利用促進に力を入れていきたい。								

【目標3】 まちの変化に応じた公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値	目標値/実績値
① あやめバス（市街地循環）の年間利用者数	80,582人 (H27年度)	80,956人	81,330人	81,704人	82,078人	82,452人	82,826人	83,200人
		81,661人	78,277人	75,533人	63,905人	64,969人	67,068人	71,111人
達成状況		○	×	×	×	×	×	×
R5年度は、前年度から引き続き増加したものの、コロナ禍前の水準には戻っていない。市街地循環バスは、中心市街地における重要な移動手段であり、利用者数の推移をみながら、運行ルートやダイヤの見直しを行っていく必要がある。⇒公共交通計画では、コロナ禍前のH30年度の利用者数を目標値に設定。								
② 通学における高校生の公共交通利用率	51.0% (H28年度)	52.4%	53.9%	55.3%	56.7%	58.1%	59.6%	61.0%
		—	—	50.2%	—	—	54.6%	—
達成状況		—	—	×	—	—	×	—
R5年度はアンケート未実施。農業高校前停留所の乗降者数に差があり、下校時の利用が少ないため、下校に対応したダイヤの見直しなどを検討する必要がある。⇒公共交通計画の指標にはないが、多くの高校生に利用していただけるよう改善していく必要がある。								

※「評価」欄の○は達成、×は未達成

施策	内容	実施中	一部実施	未実施	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
施策1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保										
	事業1-1 市内高校へ通学しやすい運行時間や運行ルートの設定	●			随時実施						
	事業1-2 通院や買い物の往復など利用状況に対応した適切な運行	●			随時実施						
	事業1-3 新発田市コミュニティバス（菅谷・加治地区）の継続運行	●			随時見直し実施						
	事業1-4 川東コミュニティバスの継続運行		●		毎年度検証・見直しを行う		継続又は見直し				
	事業1-5 東中学校区の公共交通の見直し	●			優先的に検討・実施						
	事業1-6 各地区の公共交通の見直し		●		随時実施						
	事業1-7 コミュニティバス運賃の見直し		●		コミュニティバスの検証・見直しに応じて検討						
	事業1-8 高校生や高齢者への運賃割引制度の検討と障がい者割引運賃の実施		●		随時実施						
	事業1-9 高齢者運転免許返納支援事業の継続実施	●			随時実施						
	事業1-10 スクールバスの運行と定期券の購入補助	●			随時実施						
事業1-11 廃止代替路線の検討、見直し		●		各地区の公共交通の見直しに併せて検討・見直しを行う							
施策2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備	実施中	一部実施	未実施	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	事業2-1 鉄道との接続を考慮したあやめバス、コミュニティバス、路線バスのダイヤ改正	●			鉄道のダイヤ改正に応じて実施						
	事業2-2 あやめバスとの接続を考慮したコミュニティバス、路線バスのダイヤ設定		●		バス路線の見直しに応じて実施						
	事業2-3 地域をつなぐコミュニティバスや路線バス同士のダイヤ設定		●		バス路線の見直しに応じて実施						
事業2-4 利便性向上に向けた鉄道事業者への改善要望活動の実施	●			随時実施							
施策3	公共交通を利用しやすい環境整備	実施中	一部実施	未実施	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	事業3-1 バス待合所の設置推進とバス待合所設置事業補助金制度の見直しの検討		●		随時実施						
	事業3-2 バリアフリー車両の導入促進と導入車両の検討	●			随時実施						
	事業3-3 市内公共施設と連携したデジタルサイネージを活用した情報発信	●			随時実施						
	事業3-4 「バスどこ？」の対象路線拡大とシステムの再構築		●		バス路線の見直しにあわせて対象地域の拡大を検討						
	事業3-5 バス停案内表示の充実と公共交通ガイドマップの作成		●		バス路線の見直しにあわせて実施						
	事業3-6 地域主催の乗り方教室の開催	●			随時実施						
事業3-7 ICカード導入の検討	●			各地区の公共交通の見直し状況に応じて検討							
施策4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり	実施中	一部実施	未実施	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	事業4-1 ノーマイカーデーの周知・啓発	●			随時実施		休止		実施		
	事業4-2 商店街等と連携した取組の検討		●		あやめバスの検証・見直しに応じて検討						
	事業4-3 車内・車外広告の募集やバス停のネーミングライツの検討		●		随時実施（ネーミングライツは車内・車外広告の募集状況に応じて検討）						
	事業4-4 地域住民の主体的な組織づくりや活動の支援	●			地域住民の意向に応じて実施						
	事業4-5 公共交通の手引きの発行			●	優先的に検討						
	事業4-6 各種イベントやホームページ等の活用による利用促進・意識啓発	●			随時実施						
	事業4-7 サポーター制度の構築		●		地域住民の組織づくりや活動に応じて検討						
事業4-8 高校・大学と連携した利用促進活動		●		随時実施							
施策5	アクセス向上による都市拠点の形成強化	実施中	一部実施	未実施	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	事業5-1 あやめバスの運行とダイヤ改正やルート変更等による利便性の向上		●		随時実施（ダイヤ改正やルート変更は運行内容の検証に応じて検討）						
	事業5-2 あやめバス利用者に対する移動ニーズ調査		●		優先的に検討						
	事業5-3 あやめバスの新たなネットワークの検討	●			移動ニーズ調査の結果を踏まえて検討						
	事業5-4 パークアンドライドのあり方の検討	●			利用ニーズの状況等に応じて検討						
	事業5-5 駐輪場の維持	●			随時実施						
	事業5-6 公共交通システムとの連携などの検討		●		駅の利用状況等に応じて検討						
	事業5-7 移動ニーズ調査の実施や市内観光施設を結ぶ周遊ルートの策定	●			随時実施						
事業5-8 広域観光周遊ルートの策定	●			随時実施							
施策6	広域的な交通ネットワークの形成強化	実施中	一部実施	未実施	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	事業6-1 近隣市町をつなぐ公共交通の見直し	●			優先的に実施						
	事業6-2 交通結節点の待合環境の整備と乗継ぎダイヤの見直し [定住自立圏連携事業]		●		随時実施						
	事業6-3 広域的な公共交通ガイドや位置情報システムの検討		●		広域的な公共交通の見直しに応じて検討						
	事業6-4 羽越本線の高速化に向けた要望活動の実施やシンポジウムの開催支援	●			随時実施						
	事業6-5 広域交通維持事業（県内都市間高速バス） [連携中枢都市圏連携事業]	●			随時実施						
事業6-6 生活交通維持事業（地域間幹線系統バス路線） [連携中枢都市圏連携事業]	●			随時実施							
R5進捗状況別事業数		24	19	1							
R4進捗状況別事業数		23	19	2							
R3進捗状況別事業数		22	18	4							
全事業数		44									

## 【参考】公共交通計画の抜粋（計画期間：令和6年度～令和10年度）

### 目標

#### 目標1 周辺地域の公共交通の維持・確保【課題1、4、5、6】

周辺地域では、地域ごとの特性にあわせて定路線迂回型等を含む柔軟な公共交通を展開し、周辺地域と新発田市街地を結ぶ市民の生活の足を維持・確保します。

#### 目標2 まちなか移動を支える公共交通の充実【課題3】

新発田市街地では、市街地循環（あやめ）バスの充実により、まちなかの移動利便性を向上させ、活性化につなげます。

住宅地や商業地などの開発によるまちの変化に対応する公共交通網を構築します。

#### 目標3 地域で支える公共交通の構築【課題7】

利用者の確保に向け、地域住民の主体性を育成し、地域とともにつくる環境づくりを進めます。

「地域で地域の公共交通を守る」意識を醸成するため、公共交通に関する情報発信を強化します。

#### 目標4 持続可能な公共交通網の構築【課題2、4、8、9】

社会の変化や移動ニーズに応じた運行体系の見直しにより、持続可能な公共交通網を構築します。

将来に向けた公共交通の基盤整備を目指し、必要に応じて新技術の導入や地域の輸送資源の総動員について検討します。

### 評価指標

上記の目標について、7つの評価指標を設定します。

表 評価指標

評価指標	関連目標
①営業路線（大形線）の利用者数・収支率・本市の財政負担額	目標1,4
②市街地循環（あやめ）バスの年間利用者数	目標2
③市委託路線の年間利用者数	目標1
④市委託路線の財政負担額	目標4
⑤市委託路線の収支率	目標4
⑥公共交通空白地域の解消率	目標1
⑦数値目標設定の路線数	目標3

評価指標① 営業路線（大形線）の利用者数・収支率・本市の財政負担額	
関連目標	目標 1 周辺地域の公共交通の維持・確保 目標 4 持続可能な公共交通網の構築
現況値（R4）	利用者数 : 314,000 人/年 収支率 : 77.5% 財政負担額 : 0 円/年
目標値（R10）	利用者数 : 361,000 人/年 収支率 : 77.5%以上 財政負担額 : 0 円/年
指標の算定方法	利用者数 : 大形線利用者数データを活用 収支率 : 経常収益÷経常費用×100 財政負担額 : 経常費用－経常収益－補助金  [R4 年度補助の内訳] ・国庫補助（地域間幹線系統）: 12,109,500 円
データ出典元	新発田市保有の実績
目標値設定の考え方	利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 30 年度の水 準まで回復させることを目標とします。 収支率は現状を下回らない目標とします。 財政負担額は、利用促進策や国庫補助金等を活用しながら、新発田 市の負担が発生しないことを目標とします。

評価指標② 市街地循環（あやめ）バスの年間利用者数	
関連目標	目標 2 まちなか移動を支える公共交通の充実
現況値（R4）	67,068 人/年
目標値（R10）	78,000 人/年
指標の算定方法	市街地循環（あやめ）バス利用者数データを活用
データ出典元	新発田市保有の実績
目標値設定の考え方	新発田市まちづくり総合計画において、利用者数の目標値が示され ていますが、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 30 年度の水 準まで回復させることを目標とします。

評価指標③ 市委託路線の年間利用者数	
関連目標	目標 1 周辺地域の公共交通の維持・確保
現況値 (R4)	90,355 人/年 ※市街地循環 (あやめ) バス除く
目標値 (R10)	H30 年度時点の現況値 (豊浦地区公共交通のみ R4 年度) である 110,557/年に加え、R5 年度から順次運行を開始する路線の利用者数 (運行開始から 2 年目の値) を上乘せし、前年度を下回らない目標とする。
指標の算定方法	H30 年度時点における利用者数 (豊浦地区公共交通のみ R4 年度) に加え、R5 年度以降、赤谷・加治川・紫雲寺・佐々木の各地区で運行開始する路線の利用者数を合算
データ出典元	事業者及び新発田市保有の乗降データ
目標値設定の考え方	新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 30 年度の水準まで回復させるとともに、令和 5 年度以降に新たに市委託となる路線についてはその路線の利用者数を上乘せし、前年度を下回らないことを目標とします。

評価指標④ 市委託路線の財政負担額	
関連目標	目標 4 持続可能な公共交通網の構築
現況値 (R4)	市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバス : 729 円/年・人 新発田版デマンド方式の路線 (松浦地区公共交通、豊浦地区公共交通) : 2,762 円/年・人
目標値 (R10)	市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバス : 729 円/年・人以下 新発田版デマンド方式の路線 (新規委託路線含む) : 2,000 円/年・人以下
指標の算定方法	(運行経費 (車両施設整備費含) - 総収入 (現金+回数券+定期券) - 補助金) ÷ 利用者数 [R4 年度補助の内訳] ・国庫補助 (地域内フィーダー系統) : 9,062,000 円 ・新潟県補助 : 4,231,000 円
データ出典元	事業者及び新発田市保有の実績
目標値設定の考え方	バス車両で運行する市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバスでは、現状より利用者の増加を目標としているため、利用者 1 人あたりの財政負担も現状の 729 円を下回る目標とします。ワゴン車両で運行する新発田版デマンド方式の路線については、国が適正值と示す利用者 1 人あたり 2,000 円を下回ることを目標とします。

評価指標⑤ 市委託路線の収支率	
関連目標	目標 4 持続可能な公共交通網の構築
現況値 (R4)	市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバス : 10.6% 新発田版デマンド方式の路線 (松浦地区公共交通、豊浦地区公共交通) : 6.8%
目標値 (R10)	市街地循環 (あやめ) バス・コミュニティバス : 10.6%以上 新発田版デマンド方式の路線 (新規委託路線含む) : 6.8%以上
指標の算定方法	総収入 (現金+回数券+定期券) ÷ 運行経費 (車両施設整備費含) × 100
データ出典元	事業者及び新発田市保有の実績
目標値設定の考え方	廃止代替路線の市委託路線への切り替えなどを行いながら、収支率の改善を目指します。

評価指標⑥ 公共交通空白地域の解消率	
関連目標	目標 1 周辺地域の公共交通の維持・確保
現況値 (R4)	68.0%
目標値 (R10)	79.0%以上
指標の算定方法	【バス停・鉄道駅圏域内の人口 ÷ 新発田市の総人口】 ※バス停・鉄道駅圏域内の人口は面積按分による算出
データ出典元	バス停・鉄道駅圏域内の人口 : R2 国勢調査 (250m メッシュ) 新発田市の総人口 : R2 国勢調査
目標値設定の考え方	バス路線の縮小等による、新たな公共交通空白地域が発生しないように対応するとともに、公共交通空白地域の解消に努めることが必要です。そのため、加治川地区や紫雲寺地区、佐々木地区で新発田版デマンド方式を採用した公共交通を新たに運行するなど公共交通カバー圏の拡大を図り、79.0%以上の解消率を目指します。

評価指標⑦ 数値目標設定の路線数	
関連目標	目標 3 地域で支える公共交通の構築
現況値 (R4)	1 路線
目標値 (R10)	9 路線 (市委託路線全路線)
指標の算定方法	利用者数の数値目標を設定し、達成状況に応じて増減便を図る仕組み (バストリガー方式) を導入した路線数
データ出典元	新発田市保有データ
目標値設定の考え方	公共交通を維持するためには、継続的に利用してもらうことが必要不可欠であるとともに、「地域で地域の公共交通を守る」という意識の醸成が必要です。そのため、達成状況に応じて増減便を図る仕組み (バストリガー方式) の導入を目指します。